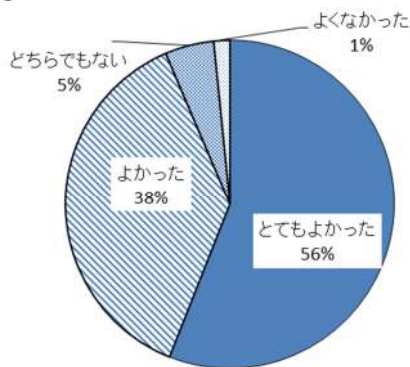


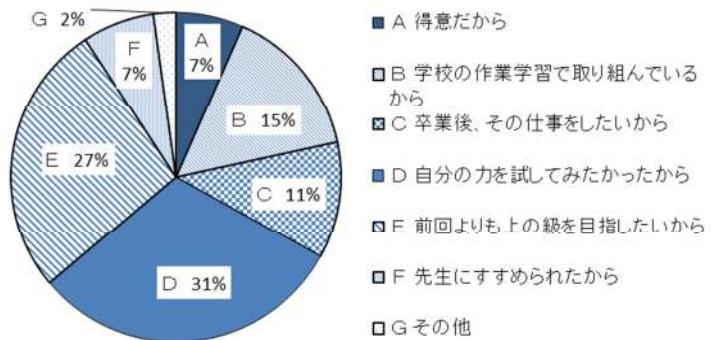
第4回愛顔のえひめ特別支援学校技能検定アンケート結果

(1) 受検者

① 「受検してどうでしたか」



② 「その種目を受検しようと思った理由」

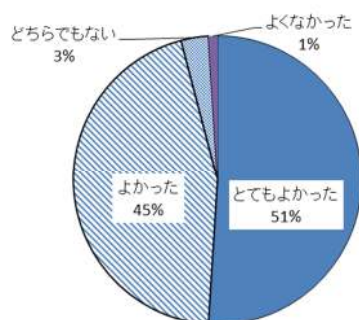


③ 感想（自由記述）

- 自分の力を知るよい機会となった。他の受検者の接客を見て、自分に何が足りないのかが分かった。
- 販売実務では、手洗いや挨拶、商品を丁寧に扱うことがとても大切なので、もっと学んで社会に生かそうと思った。
- 来年に向け、今回できなかった所を直して、1級をとれるよう練習をしっかりと本番に臨みたい。
- 検定で身に付けたことが、家庭でも役に立っていて、自分のためになっていると思う。
- 検定だけ頑張るのではなく、普段の生活の中で、技能検定やキャリアの授業で学んだことを生かしていくことが大切だと思う。

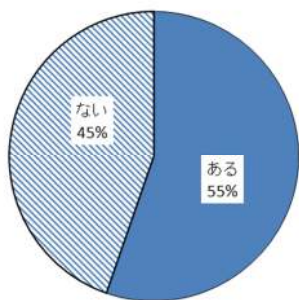
(2) 保護者

① 「子どもさんを受検させてどうでしたか」（自由記述）



- 練習などを通して、真剣な気持ちで仕事に取り組む姿勢や目標に向けて努力する大切さなどを学ぶことができた。
- 何にでも目標を持ち、それに向かって頑張る時間が取れるということは、とてもいい過ごし方だと思う。
- 挨拶もしっかりできるようになり、1級に合格したことで、本人の自信につながったように思う。
- 回を重ねるごとに頑張る上級を目指そうという気持ちが芽生えてきて、努力するようになった。

② 「子どもさんの様子で受検前と後とで変わったことがありますか。」（自由記述）



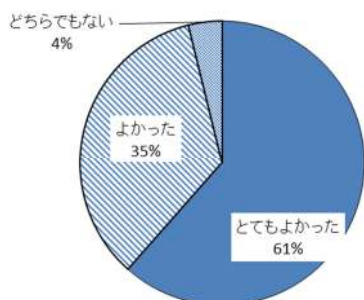
- 何においても自信がなかった子が1級を取得したことで、物事に積極的に取り組めるようになった。次は別の部門に挑戦したいと言っている。将来の就職に役立てたいと意欲的な発言も見られるようになった。
- 家事の手伝いの際に、乾きやすいように洗濯物を干したり、ある程度周りの物を片付けてから掃き掃除をしたりするなど、流れを考えながらするようになった。
- スーパーに買い物に行った際、自分の興味のある物に目が行くのではなく、「これはこうするんよ」と、商品の並び方に目がいくようになった。仕事に対して興味を持つようになった。

③ 「今後、技能検定に期待することは、どんなことですか」（自由記述）

- 子どもたちが目標に向かって活動する喜びや達成感などを実感できるものであってほしい。
- 別の部門を増やしていけば、子どもたちの新たな能力が発揮されるかもしれない。期待している。
- 卒業後、実務に応用できるような検定を増やしてほしい。
- 事業所に広く知ってもらいたい。 ○ 結果が就職につながるようにしてほしい。

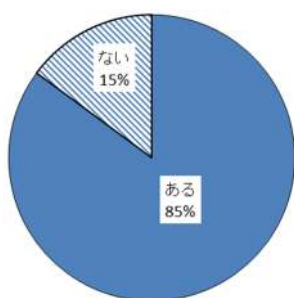
(3) 教員

①「生徒を受検させてどうでしたか」(自由記述)



- 自分で課題を見つけ、修正し、課題を克服しようとする姿勢が身についた。
- 目標を持って日頃の授業や生活の改善に取り組み、その成果を発揮できる場面があるというのは、見通しが持ちやすく意欲の向上につながる。
- 目標が明確なので、生徒たちは本当に真剣に授業に取り組んでいる。互いによかったところやできていないところを指摘し合っている。
- 作業の向こう側にお客様がいることを意識することで、身だしなみを整えたり清潔にしたりすることの意義を明確に伝えることができた。

②「生徒の様子で受検前と後とで変わったことがありますか。」(自由記述)



- 生徒にとって難しいと思っていたこと、苦手だと感じていたことが級を得る形で評価されたので、自信や達成感が得られたように感じる。
- 実技指導アドバイザーから具体的指導を受けたり、中学部生徒へ模範実演を行ったりすることにより、活動に自信が持てるようになり、日常生活でも積極的な場面が増えた。
- 1級を取れなかったことが悔しい、また挑戦したいと意欲になった。検定を思い出し、注意深く作業することができるようになり、集中力も高まった。
- 現場実習で、それぞれの技能を生かせる場面が多い。特に生徒たちが最も苦手としているコミュニケーション(接客)においては、適切な言葉遣いや言い回しなどを身に付けることで、以前より自信をもってお客様と対応できるようになった生徒もいる。

③「教員として、技能検定に取り組むことで変わったことはありますか。」(自由記述)

- 技能を身に付ける取組の中で、個々の生徒が理解しやすい工夫などを改めて考えさせられた。
- 「なぜこの行為をするのか」という行動の意味を意識して、生徒に伝えるようになった。
- まずは自分自身の研鑽が必要だと感じた。生徒に対し、自信をもって指導できるようになりたい。
- 専門家の指導を受けることで、作業の専門的知識を身に付けることができ、指導の方法も充実してきた。
- もっと生徒に様々なことをさせる機会や時間を設けて、待つ姿勢が必要であると感じた。
- 身だしなみや生徒の言動等について、この程度ならOKと思っていたことはいい加減であったことが分かった。
- 小さなことでも曖昧にせず、しっかり定着させていかなければいけないと思った。
- 挨拶や掃除の技術など、「検定用」ではなく、普段の生活に活かせるように、指導・支援をしていかなければならないと思うようになった。
- 個々の生徒の成長に向き合い、達成感を共有することができた。

④「今後、技能検定に期待することはどんなことですか。」(自由記述)

- 社会で必要とされている多方面の技能、即戦力となるような部門の設定を期待する。
- 種目が増えて、技能レベルもアップすることが期待される。また、技能面だけでなく、内面の成長にもつながるよう、各学校の取組紹介等も加えていくとより良くなると思われる。
- 高齢者の福祉施設への就労につながるような技能検定の必要性を感じている。
- 身だしなみは、常日頃からもっと当たり前のようにしたい。技能検定に係る教員だけでなく、全ての教員が意識して言葉掛けをしていく必要があると思う。
- さらに企業に対してアピールしてほしい。企業に評価してもらい、就労へつなげてほしい。
- 支援方法や繰り返しの学習等により生徒がかなりのことをできることを、事業所の方に見て理解してほしい。
- 実際の現場で働いている方の意見を聞いたり実技を教えていただく機会が増えるとよい。